

Archer 公的機関向けソリューション

情報保証 (IA:Information Assurance) の専門家は、多くの課題に直面しています。次々と生まれる新しい要求事項と脅威、より良いリスク洞察の必要性、サイロ化された人とテクノロジー、およびリソース不足により、IAチームを取り巻く環境はより複雑化しています。コンプライアンスは、政府機関の予算圧縮、新しいサイバー脅威、新しく増加する要求事項を考慮するまでもなく、大変な課題でした。ここに、実際の運用セキュリティデータをコンプライアンス活動に統合するという課題が加わることで、こうした取り組みはより複雑化しています。

リスクの洞察は、IAチームにとってまた別の重要課題です。画一的な処理や統制をすべての資産に適用すれば、保護の過不足が生じ、一般的に費用も高額になります。セキュリティ管理ツールを使用すれば、足りないパッチの数や見つかった脆弱性の数を把握できますが、実際にどのようなミッションに取り組めば良いのかその前後関係を提供するものはほとんどありません。その結果、リスクの決定はリスクの全体像を把握することなく、管理者レベルで行われ、セキュリティ管理者は、どの発見事項や欠陥を優先対応すべきかを判断できません。

米国行政管理予算局 (OMB: Office of Management and Budget) の規約と通達、および連邦情報セキュリティ管理法 (FISMA: Federal Information Security Management Act) が要求するアセスメントと認可 (A & A: Assessment and Authorization) を遵守するには、政府に年間数十億ドルの費用がかかります。現在のIAパラダイムは高額であり、IA予算は、現在と将来の課題に対処するためのツール、人員、およびトレーニングを確保するのに手一杯です。さらに、公的機関のコミュニティ内に存在するサイロ (大規模な部門間、さらには単一オフィスのワークフロー) は、ツール、プロセス、標準、データ、および言語の不一致や冗長性を生み出す可能性があります。

セキュリティ、コンプライアンス、リスク管理を1つのプロセスにまとめる

リスクおよび統制関連のデータを中央リポジトリに集約することは、すべての利害関係者がリスクを正確かつ包括的に把握するための最初のステップです。ツールと人の中からデータと通信のサイロを解消し、この合理化されたデータフローを活用することにより、時間の節約、データ共有の促進、十分な情報に基づいたリスク決定を行うことができます。共通のツールとプロセスの使用により、FISMA、OMB、およびその他のコンプライアンス要件を追跡・管理すると同時に、米国会計検査院 (GAO: Government Accountability Office) やその他の監査で、アセスメントデータを再利用できます。自動と手動の継続的監視ツールを統合することで、コンプライアンス要件を満たし、欠陥の改善を迅速化し、実際のリスクを軽減し、完全な最新のリスク指標を提供できます。

Archer公的機関向けソリューションの利点

Archer公的機関向けソリューションは、公的機関に特有のニーズを満たすように設計されており、効果的な情報保証プログラム管理に不可欠な機能を提供し、既存のインフラストラクチャへの投資を最大化します。

一元化されたデータの活用

共通のプラットフォームと分類法を準備し、そこにスキャナー、センサー、その他のセキュリティツールを統合することにより、IAチームは、コラボレーション可能な環境にデータを収集し、共有することができます。このインフラストラクチャにより、データの継続的なインポート、エクスポート、再フォーマットの必要性がなくなり、サイロが解消され、利害関係者は情報をより迅速かつ簡単に共有できるようになります。情報共有は、リスクを軽減し、コンプライアンスを確保するために、情報に基づいたリスクベースの意思決定を行うためのより広い視野を利害関係者に提供します。

セキュリティプログラムを成熟させる

長年にわたり、FISMAは、一連の成果物を用意し、認証および認定 (C&A: Certification and Accreditation、現在はA&A) を受ける検査のためのプロセスと見なされ、少なくとも3年ごとに再審査されていました。最近になって、OMBは、承認されたセキュリティ体制の継続運用を確実にするため、システムを継続的に監視するよう各機関に指示しました。Archer公的機関向けソリューションにより作成するA&A成果物は、緊急時対応計画、継続的監視、およびサードパーティとサプライチェーンの管理を行う他のArcherソリューションに拡張することができます。ソリューションを統合したアプローチにより、組織はより多くの情報に基づいた効率的な方法でセキュリティ機能を管理および継続的に監視できるようになります。

真のアジリティを活用する

公的機関で現在使用されているほとんどのソリューションとは異なり、Archerでは、硬直した一つの塊としてユースケースがハードコーディングされているわけではありません。アプリケーション、ワークフロー、レポート、ダッシュボードは、内部ポリシーやプロセスの変更に合わせてすばやく再構成できます。規制、ガイダンス、またはプログラムが変更された場合は、それらに合わせてソリューションを変更し、プロセスを適切に調整できます。

Archer公的機関向けソリューション

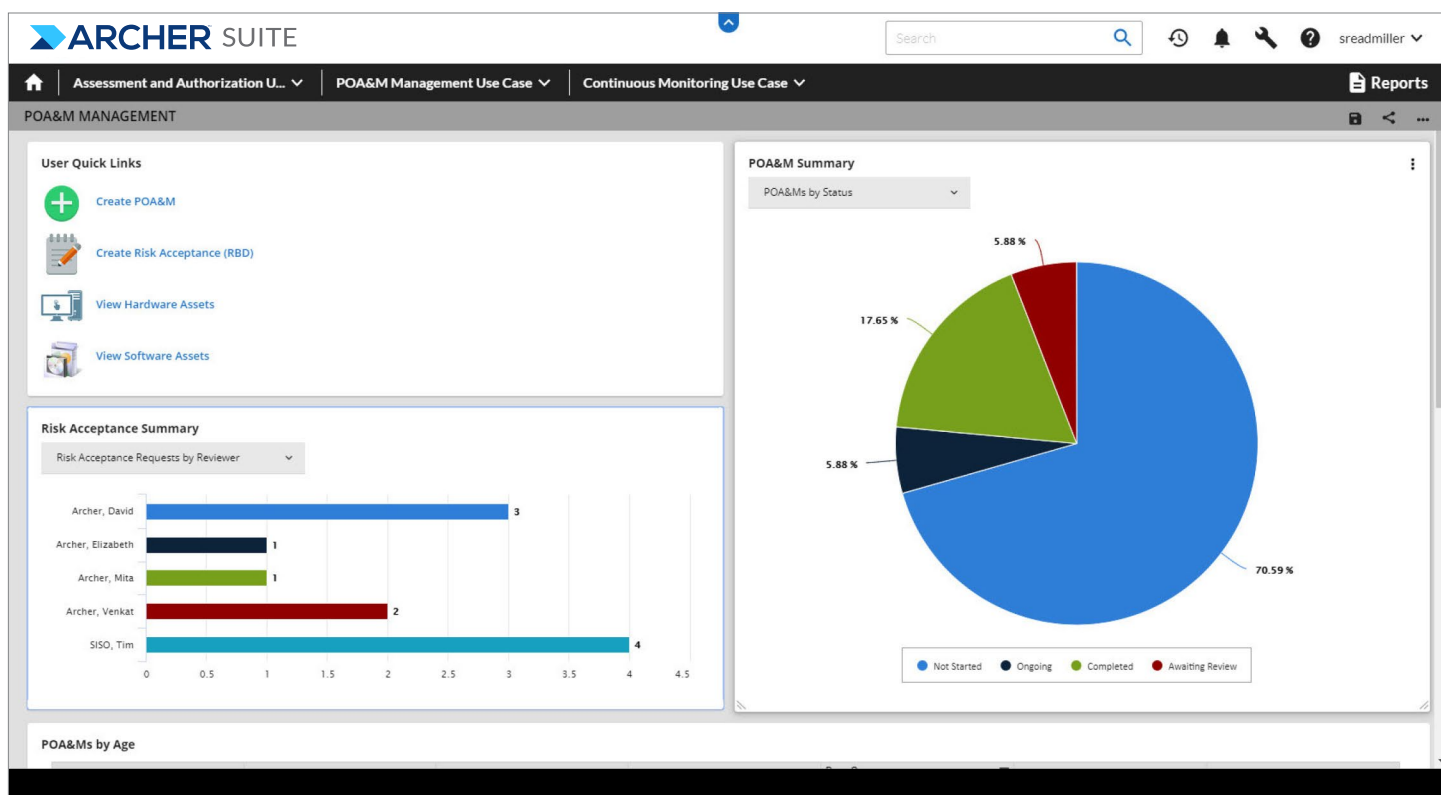
Archer公的機関向けソリューションを使用すると、人、プロセス、テクノロジーを活用して、アセスメントと認可、継続的モニタリング、アクション計画とマイルストーン (POA&M) 管理、および全体的なリスク管理を行うための統合的アプローチを構築できます。IAの課題を解決するだけでなく、労働時間の削減、ソフトウェアライセンスとトレーニングのコスト削減、生産性の向上、リスクとインシデントの削減により、優れた投資収益率を提供します。また、改善されたデータ共有、共通の分類法およびワークフローの使用を通じて、IA組織により良い共通文化をもたらします。

Archer公的機関向けソリューションには、組織の特定のニーズを満たすためのユースケースがいくつか含まれています。

- Archerアセスメントと認可を使用すると、組織は、全体的なセキュリティと統制を向上させながら、FISMAおよびOMBの要求事項に準拠することができます。これにより、組織内のすべての人、場所、コンポーネント、およびレイヤーの記録システムが可能になり、NIST RMF、DIACAP、DOD RMF、およびFedRAMPのすべてのフェーズの管理を含む包括的な情報保証管理プログラムの基盤が築かれます。Archerアセスメントと認可はArcher継続的モニタリングとの統合により、真の継続的認可 (OA: Ongoing Authorization) 機能を提供します。

- Archerアセスメントと認可を使用すると、組織は、全体的なセキュリティと統制を向上させながら、FISMAおよびOMBの要求事項に準拠することができます。これにより、組織内のすべての人、場所、コンポーネント、およびレイヤーの記録システムが可能になり、NIST RMF、DIACAP、DOD RMF、およびFedRAMPのすべてのフェーズの管理を含む包括的な情報保証管理プログラムの基盤が築かれます。Archerアセスメントと認可はArcher継続的モニタリングとの統合により、真の継続的認可 (OA: Ongoing Authorization) 機能を提供します。
- Archer アクション計画とマイルストーン (POA&M) 管理を使用すると、発見事項と欠陥を一元管理し、改善作業の日付、マイルストーン、およびコストを追跡できます。また、POA&Mを正式な承認およびレビュープロセスを通過させることにより、パフォーマンス管理とコスト指標の機能も提供します。

Archer アクション計画とマイルストーン (POA&M) 管理を使用すると、発見事項と欠陥を一元管理し、改善作業の日付、マイルストーン、およびコストを追跡できます。また、POA&Mを正式な承認およびレビュープロセスを通過させることにより、パフォーマンス管理とコスト指標の機能も提供します。



Archerについて

Archerは、統合リスク管理 (IRM) ソリューションのリーディングプロバイダーであり、お客様の戦略的意思決定と業務回復力の向上を、ビジネスとITの両方の影響を主軸に行う定性・定量分析をサポートする近代技術プラットフォームにより可能にします。GRCソフトウェアの真のパイオニアとして、Archerは、従来の業務運営リスクからESGのような新しい問題に至るまで、お客様がリスクとコンプライアンスの領域を管理できるよう支援することに唯一専念しています。リスク管理業界で20年以上の実績を持つArcherの顧客基盤は、世界最大の純粋なリスク管理コミュニティの1つであり、Fortune 500企業の50%以上を含む1,200以上の顧客を有しています。

詳しくは、www.ArcherIRM.com をご覧ください。